

# 高知大病院における緩和ケアチームへの専任薬剤師の関わり

緩和ケアチーム

○尾木 恭子    北岡 智子    近藤 恵子    掛田 恭子  
川崎 元敬    増井 寿    市原 和彦    宮村 充彦

## 【目 的】

2008年4月より緩和ケア診療加算の要件に緩和ケアチーム(以下PCT)専任薬剤師の配置が明記された。当院PCTにおいても同年4月より専任薬剤師が配置され、週2日間、PCT活動に参加している。その活動内容を調査し、専任薬剤師の役割や今後の課題を明らかにする。

## 【方 法】

2008年4月～2009年3月の1年間にPCTに紹介された122症例中、専任薬剤師が関わった46症例の診療録及びPCTの活動記録より活動内容を抽出し、その内容から専任薬剤師が担う役割や課題を考察した。

## 【結 果】

PCT内において専任薬剤師が関与した活動として、「PCTカンファレンスへの参加」、「PCT活動に関するデータ管理」、「緩和ケア教育の企画」、「研修の受け入れ」、「薬剤の情報収集・提供」が抽出された。特に、コンサルテーションを通じた関わりとして、「PCT以外の医師や看護師のカンファレンスへの参加」、「依頼元チームやPCT員との連携による症状マネジメント」、「患者や家族、医療スタッフへの薬剤指導・情報提供」、「オピオイドに対する正しい理解の普及」が抽出された。

## 【考 察】

専任薬剤師が、がん患者と家族の苦痛をトータルペインとして理解する事および症状マネジメントやコンサルテーションに積極的に関与するには、緩和ケアの専門的知識の習得、コミュニケーションスキルの向上、他職種の役割への理解が必要と考える。今回の結果より、PCT活動は多診療科に及ぶため、各診療科の薬剤管理指導担当薬剤師との情報共有が重要と考察した。また、薬剤部内においては、PCT専任薬剤師として、薬剤師個々の緩和ケアに対する理解及び知識の向上を図る上で、薬剤部内の緩和ケアに関するカンファレンス及び勉強会の充実、PCT活動と薬剤部内業務との調整等の体制作りが課題として明らかになった。

〔平成21年10月17・18日 第3回日本緩和医療薬学会年会(横浜)にて発表〕